

熊野古道・紀伊路の日帰り歩き そのII

2. 湯浅、鹿ヶ瀬峠、御坊： 6時間5分 22.7Km

このコースは、醤油発祥の町である湯浅から石畳の峠を越え、安珍清姫の道成寺に向かう中身の濃いコースである。このコースも結構長いですが、御坊駅の一つ手前の紀伊内原駅にドロップ出来る。しかし、有名な道成寺まで行かないと物足りない。このコースには、珍しい黒竹が植えられている「黒竹の里」、古道中の現存する石畳で“最も長い石畳(500m)”がある「鹿ヶ瀬峠」、「熊野古道公園」などがあり、見所が多い。

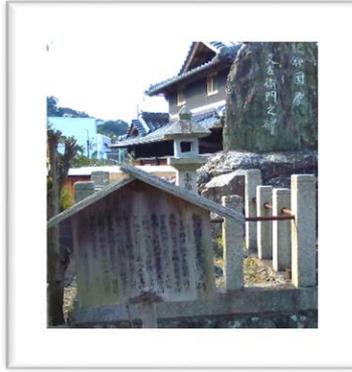
湯浅駅～紀伊内原駅



紀伊内原駅～道成寺を経て、御坊駅



湯浅駅を出発すると直ぐに勝楽寺の案内板（写真、左）がある。この寺には、湯浅で生まれた紀伊国屋文左衛門の石碑（中央）がある。そこからは、国道42号と交差したり、川沿いの道など迷い道となる。コースから2Kmほど外れてしまい、きょろきょろしていたら、駅で見かけたタクシーが、客を送った帰りで声をかけてくれて、親切にも古道合流地点まで送ってくれた。幾つかの〇〇王子跡を過ぎ、赤い鳥居が強烈な丹賀大権現社（右）を過ぎ、河瀬橋を過ぎると、古道の雰囲気となる。



直ぐに、“黒竹（左）の里”に入る。新しく整備された石畳の道になり、鹿ヶ瀬峠（中央）に到着し、昼食休憩となる。峠を過ぎると、熊野古道公園（右）があり、桃の花が咲いていた



次に、冒頭で紹介した古道中最も長い石畳の道（左、右）になる。



やがて、金魚茶屋跡（左）がある。江戸時代に金魚を飼って熊野古道の巡礼者を癒したと言われている。沓掛王子跡（中央）からは広い道になり、四ツ石聖石（後鳥羽上皇一行の休憩所跡（右）に着く。



ここからは、川に沿ってもくもくと歩く。ひたすら歩く、遠い。やがて内原王子神社（高家王子跡）（左）にたどり着く。線路を横切り、紀伊内原駅を遠くに見て、また、線路を横切り、道成寺（右）に向かう。道成寺には、蛇となった清姫に焼き殺された安珍の塚（二段目）がある。

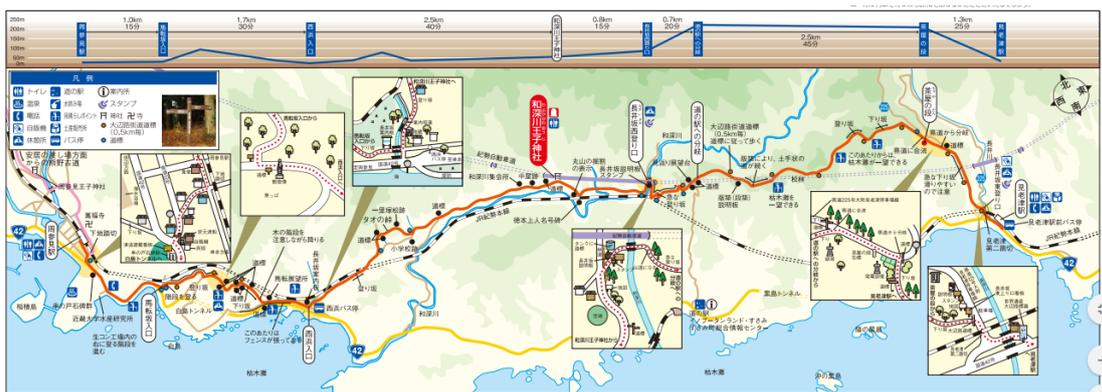


疲れたら、道成寺駅から普通列車に乗れる。やっと長い一日が終わった。

熊野古道 大辺路 ハイライト

熊野古道・紀伊路は紀伊田辺までで、田辺からは「中辺路」を通り、熊野本宮に向かうが、紀伊半島を海沿いに那智に向かう古道がある。紀勢本線や国道42号と同じルートである。このルートは、「大辺路」と呼ばれ、遠回りになるので、帰路に利用していたようである。「大辺路」の中で大阪から日帰りで行ける素敵なコースを紹介する。枯れ木灘の雄大な眺め、ウバメガシのトンネルなど素敵なコースである。

なお、熊野古道は、世界遺産に認定されているが、古道全部が認定されているのではなく、キメ細かく部分的に認定されている。「中辺路」は、殆ど全ての部分が認定されているが、その他の古道は、町を通る部分などは認定されていない。「大辺路」や「伊勢路」などは、〇〇峠の部分のみが認定されていると理解した方が無難である。認定されている部分は、道と道標が良く整備されている。このコースでは、「長井坂」のみが世界遺産に認定されている。世界遺産に認定されていない、町の中を通る部分は、間違いやすく道を探すのに時間がかかる。



コース：周参見駅・タオの岬・和深川王子神社・長井坂・見老津駅

歩行時間：3時間35分 距離：11.1Km

(注：白浜より遠いため列車の本数が少ない。周参見駅は特急が停まるが、見老津駅は各停しか停まらず、極めて本数が少ないので、時刻表で十分に確認しておくこと。)

周参見駅を出て海岸線に沿って歩く。枯れ木灘(写真、左)がきれいである。やがて国道と分かれ、山道に入る。タオの岬(右)を過ぎると、一度、和深川集落に下る。



和深川王子神社（左）を通り、世界遺産の「長井坂」へ向かう。長井坂の看板（右）を過ぎ、坂を登る。



ウバメガシの林が続く長井坂（左）を過ぎると、枯れ木灘の海岸線と見老津の町（右）が見える。

